

## 第116回リニアドライブ技術委員会議事録(案)

日時：平成21年10月23日(金)13:30~16:00

場所：JR東海 品川ビルA棟

出席者：委員長 脇若(信州大)

副委員長 北野(JR東海)

委員 小豆澤(東京都市大), 伊藤(日立製作所), 岩松(鉄道総研), 岡本(東海大),  
花岡(東洋電機製造), 増澤(茨城大), 森下(東芝), 平田(大阪大),  
矢野(産総研)

幹事 村井(JR東海), 水野(信州大)

幹事補佐 矢島(SMC)(記)

## 提出資料

- 116-1 第115回リニアドライブ技術委員会議事録案(矢島幹事補佐)
- 116-2 リニアドライブ技術委員会名簿(矢島幹事補佐)
- 116-3 第94回(H21年度第2回)産業応用部門研究調査運営委員会議事録案(脇若委員長)
- 116-4 リニアドライブ技術委員会委員構成と任期
- 116-5 「超電導磁気浮上式鉄道の高性能化技術調査専門委員会」, 「超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会」清算申請書(お詫び)(脇若委員長)
- 116-6 平成21年度リニアドライブ技術委員会活動報告(脇若委員長)
- 116-7 平成22年度(H22年4月~H23年3月)活動計画(1次案)(脇若委員長)
- 116-8 「研究調査運営委員会のChange」(脇若委員長)
- 116-9 産業応用部門研究調査運営委員会の運営に関する件(脇若委員長)
- 116-10 広島HSST実験線の見学について(花岡委員)
- 116-11 Proposal LDIA2011 July 4-6, 2011(脇若委員長)
- 116-12 Proposal LDIA2013 By Zhejiang University, China(脇若委員長)
- 116-13 リニアドライブ研究会(矢野委員)
- 116-14 講習会「ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ」(矢野委員)
- 116-15 「ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ研究」第3回国際シンポジウム(矢野委員)
- 116-16 ICEM2010 Call for Papers(大崎委員)
- 116-17 委員会構成員変更届(矢野委員)
- 116-18 委員会構成員変更届(岡本委員)
- 116-19 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会(MDD)活動報告(矢野委員)
- 116-20 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会(MLV)活動報告(森下委員)
- 116-21 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会(ECD)活動報告(岡本委員)
- 116-22 第1回 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会 議事録(岡本委員)
- 116-23 第2回 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会 議事録(岡本委員)
- 116-24 第5回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録(森下委員)
- 116-25 第6回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録(森下委員)
- 116-26 第2回 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会 議事録(矢野委員)
- 116-27 産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会 整理委員会 議事録(矢島幹事補佐)

## 議事

## 1. 議事録確認

資料116-1を用いて議事録の確認が行われた。以下の点を修正することで承認された。

- (1) 誤記修正：3.3内, 「(1) (1) (2)」→「(1) (2) (3)」, 3.5内「矢野委員会」→「矢野委員長」, 3.6内「9月に開催される」→「8月31日からはじまる」
- (2) 4.1内下線部を追記, 「LDIA管理委員会はD部門誌への再投稿に関して前回同様の協力を考えている」ことが確認された。

## 2. 名簿の確認

2.1 資料116-2, 116-3を基に委員名簿の確認を行った。脇若委員長から以下の変更が説明された。

- (1) 渡辺委員(IEEプロ)が退任

- (2) 水間委員（安全研）から中村委員（日本大）に交代
- (3) 築島委員（三菱電機）から大穀委員（三菱電機）に交代
- (4) 坂本委員（九工大）から花岡委員（東洋電機）
- (5) 北野副委員長が退任し、再度就任予定

### 3. 報告事項

- 3.1 資料 116-3 を用いて、脇若委員長から第 94 回（H21 年度第 2 回）産業応用部門研究調査運営委員会（8 月 30 日）の内容に関して以下の報告があった。
  - (1) 委員の管理、解散した調査専門委員会の報告書の提出を明確にするよう指示があった。資料 116-5 の「超電導磁気浮上式鉄道の高性能化技術調査専門委員会」、「超電導磁気浮上式鉄道の技術的成熟度調査専門委員会」清算申請書を提出し、承認された。
  - (2) 技術委員会の活動指針として下記が示された。（資料 116-3 p.5）
    - ・技術委員会の開催は原則として年 4 回
    - ・研究会を 2 ヶ月に一回開催
    - ・部門大会でシンポジウムまたはオーガナイズドセッションを年 1 回開催する
  - (3) メール審議が始まってから承認された設置趣意書例（資料 116-3 pp.7-13）
- 3.2 資料 116-6 を基に、脇若委員長から平成 21 年度 LD 技術委員会活動報告について、以下の説明があった。
  - (1) HSST（広島）見学会を 11 月に開催
  - (2) 6 月に予定していた交通博物館の見学会はペンディング
  - (3) 技術報告書「新世代の電気・磁気アクチュエータ」が 9 月に発刊された
- 3.3 資料 116-10 を基に、花岡委員から広島 HSST 実験線の見学について案内があった。開催日を確定し、メーリングリストで出欠を確認する。
- 3.4 資料 116-11, 12 を基に、脇若委員長から LDIA2011（オランダ）、LDIA2013（中国）について説明があった。
- 3.5 資料 116-13 を基に、矢野委員から LD 研究会（10 月 26・27 日開催）について案内があった。矢野委員から、締切日の夜に原稿を提出したが web 投稿により受け付けてもらえなかったことが説明され、電気学会事務局にもっと柔軟に対応して欲しいと要望があった。
- 3.6 資料 116-14, 116-15 を基に、矢野委員会から「ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ」に関する講習会、国際会議について案内があった。
- 3.7 資料 116-16 を基に、脇若委員長から ICEM2010（イタリア）について案内があった。11 月末までスペシャルセッションを受け付けており、活性化に挙げる国際化に貢献できる。
- 3.8 資料 116-17 を基に、矢野委員から MDD 委の追加委員について報告があった。
- 3.9 資料 116-18 を基に、岡本委員から ECD 委の追加委員について報告があった。

### 4. 審議事項

- 4.1 資料 116-6 の今年度の活動報告の説明の際、水野幹事から 1 月に開催予定の LD 研究会のアナウンスが出ておらず、遅いと指摘があった。小豆澤委員から、修論・卒論を発表できる時期（3 月）に研究会を開催すれば発表しやすいと意見が出され、年度末は忙しいが良い機会と賛同の意見があった。全国大会（3/17-19、明治大）を考慮し、3 月 4・5 日で小豆澤委員が研究会（東京都市大）を調整することとなった。
- 4.2 資料 116-7 を基に、脇若委員長から平成 22 年度の活動計画（1 次案）が説明された。モータドライブ技術委員会と協賛で開催する研究会（磁気支持）の時期について討議され、12 月に予定することになった。それにともない、1 月もしくは 2 月の研究会はリニアドライブ一般とする。
- 4.3 資料 116-8 を基に、脇若委員長から研究調査運営委員会で提案されている活性化指数について説明があり、以下の意見が出された。*運営をへ動かし*
  - C1：研究会資料の購読件数を考慮したほうがよい
  - C2：開催日数・回数だけでなく発表件数も考慮したほうがよい
  - C3：他学会との連携、国際化（国際会議に協力した件数）などを考慮したほうがよい
  - C4-1：技術報告書を作成する（調査専門）委員会の数を考慮したほうがよい
  - C4-2：委員会の数ばかりでなく、委員会の開催日数も考慮したほうがよい
  - C5：数が多いから活発な活動とは限らない。数が少ないところで積極的に活動している場合もあるので、数での判断は不適である

C6：その分野のニーズをつかまえるために、研究会・シンポジウムの参加者数も含めれば、よい活性化指数となる

4.4 資料 116-9 を基に、脇若委員長から産業応用部門研究調査運営委員会の運営に関する件が提案され、以下のように審議された。

①LD 技術委員会の取り扱う分野について

ECD について(7)リニアドライブ応用技術の () 内で「民生、医用、交通、福祉などへの適用」とする

②LD 技術委員会の名称変更、融合、分割について

名称変更、融合、分割はない

③LD 技術委員会活動指針（活性化の判断基準）について

活性化の判断基準については、努力目標とすることを提案。活性化の判断基準の内容について討議された内容は、上記 4.3 参照。

4.5 資料 116-21 を基に、岡本委員から ECD 委の活動報告があり、前委員会の委員をもとにオブザーバーを設けたいと起案があり、承認された。

4.6 資料 116-27 を基に、矢島幹事補佐から MEL 委の技術報告書執筆状況と次期委員会について説明があった。技術報告書を 12 月中に出版するため、今月中に原稿を提出するよう小豆澤委員から鳥居幹事補佐に依頼してもらうこととなった。次期委員会について、技術委員会として委員長を渡辺委員に依頼することとなった。次期委員会の内容について、若手を育てるという面から、リニアドライブの歴史を調査し、本にするなどの意見が出た。

## 5. 各調査専門委員会活動報告

資料 116-19～116-27 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上